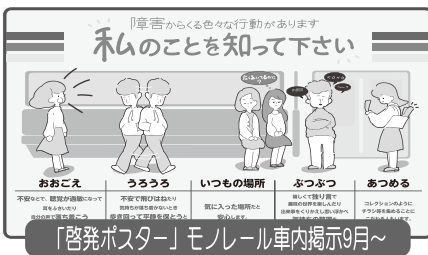
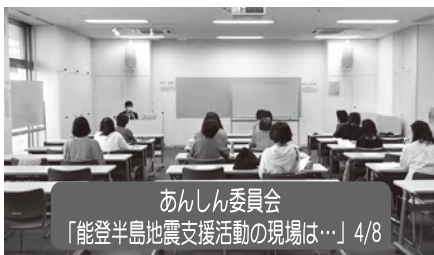


千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 175 号
令和 7 年(2025) 3 月 6 日
千葉市手をつなぐ育成会
会長 成田 智子
千葉市稲毛区作草部2-4-5
でい・さくさべ 2 階
TEL・FAX 043-206-4050
✉ chibacity-hands@ikusei-kai.jp



2024年度 育成会の主な活動



「地域で暮らすために」 育成会啓発活動

「ミニセッション 支援ボード説明会」
昨年10月12日(土)、社協都賀地区部会の民生委員さんの研修で、支援ボードの説明を行いました。

まず、避難の流れを説明し、実際に避難所での受付としての聞き取りで、避難者カードを作成してもらいました。

今回は「災害への備え」として、あんしん委員会が取り組んでいる内容も案内しました。避難者カードの重要性、ハザードマップで我が家の状況を知り、マイタイムラインを考え、おくことを勧めました。トイ問題には皆さん興味津々で、お茶での携帯トイレ実演と、モデルさんに座ってもらったアウトドアのチェア利用の手作りトイレには感心されていました。着替えに便利なポンチョや、踏み抜き防止インソール、耐切創手袋も紹介しました。民生委員さんからは、障害のある方だけでなく、地域社会の暮らしでも活用できるとの感想をいただきました。

(あんしん委員会 長谷川)

「ミニセッション 支援ボード説明会」

昨年10月12日(土)、社協都賀地区部会の民生委員さんの研修で、支援ボードの説明を行いました。

まず、避難の流れを説明し、実際に避難所での受付としての聞き取りで、避難者カードを作成してもらいました。

今回は「災害への備え」として、あんしん委員会が取り組んでいる内容も案内しました。避難者カードの重要性、ハザードマップで我が家の状況を知り、マイタイムラインを考え、おくことを勧めました。トイ問題には皆さん興味津々で、お茶での携帯トイレ実演と、モデルさんに座ってもらったアウトドアのチェア利用の手作りトイレには感心されていました。着替えに便利なポンチョや、踏み抜き防止インソール、耐切創手袋も紹介しました。民生委員さんからは、障害のある方だけでなく、地域社会の暮らしでも活用できるとの感想をいただきました。

(あんしん委員会 長谷川)

ポッチャ競技を体験

今年度のクリスマス会は、昨年12月22日(日)に千葉公園総合体育館YohaSアリーナのメインアリーナで行いました。

「メリーベル」の皆さんによるハンドベルは、クリスマスにふさわしい音色を会場に響かせてくれました。パン食い競走をアレンジしたお菓子取り競走は、好きなお菓子をじっくり選ぶ人や走り抜けるように取っていく人など個性にあふれていました。バレーンアウトが大人気で長い列ができていました。フライングディスク競技やポッチャ競技を体験し、魚釣りや玉入れなど5種類のゲームコーナーを楽しみ、「チーム☆利彥蔵」の壮大なよさこいソーランで最後を締めくくりました。

大きな会場だったため、大きなよさこい旗を雄大に振り、揃った

☆YohaS アリーナでクリスマス会☆

動きの激しい演舞に目を奪われました。特に子供たちが自分よりも大きな旗を、体を使って自在に振り上げる様子は感動的でした。

今年のクリスマス会は、新しい体育館で大きな会場でしたが、多くのボランティアに支えられ、参加者の笑顔がたくさん見られました。ありがとうございました。来年度は12月13日(土)千葉公園総合体育館YohaSアリーナのメインアリーナで開催です。皆様の参加をお待ちしています。

(レク部 松川)

育成会のうごき 11月～2月

11月11・20日 第11回話そう会 (P.2)

14日 第49回千葉市特別支援教育推進大会

15日 ふれあいの家利用団体との意見交換会

18・25日 千葉市バリアフリー基本構想推進協議会「まちあるき点検ワークショップ」(P.3)

25・12月4・6・9・10・19日 各区おしゃべり会

27日 令和6年度第3回千葉市障害者施策推進協議会

12月7日 第26回千葉市障害者福祉大会 (P.4)

22日 クリスマス会

25日 千葉市社会福祉協議会令和6年度第2回評議員会

1月7日 千葉市スポーツ振興課 障害者団体意見交換会

30日 第4回千葉市障害者施策推進協議会

2月8日 稲毛303/313地区民生委員研修会 (P.1)

13日 市立養護学校評議員会

14・17・25・26・28日 各区おしゃべり会

15日 千葉県知的障害者福祉協会

令和6年度自立支援セミナー

令和6年度千葉県福祉関係団体連絡協議会

千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会

関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会代表者会議

26日 稲毛区支え合いのまち推進協議会

28日 千葉市障害者社会参加推進協議会

千葉市4団体意見交換会

編集後記

◆25歳の娘、3年前より皮膚に慢性的に炎症を起こすようになりました。原因もわからず、完治は難しく、発症しても、特効薬もない。治まるまで長期間かかる上に、鎮痛剤も効かないひどい痛みもあり、何もしてあげられない状況です。それでも痛みを我慢しながら、明るく日常生活を送る娘が誇らしいです。

2026年に美浜区若葉に開院する予定の市立病院の名称案が「千葉市立幕張海浜病院」に決まりました。障害のある人、家族にとって配慮された、長くお付き合い出来る病院となると、期待します。

(副会長 大里)

知的障害のある人の

医療との

上手なつきあい方

昨年10月9日（水）でい・さくさべにて、九十九里ホーム病院、旭中央病院脳神経外科他、多くの団体でご活躍されている大屋滋先生をお迎えして、「知的障害のある人の医療との上手なつきあい方」というテーマで研修会を行いました。参加者は53名でした。

【医療機関受診に対する理想と現実】

障害がある人の医療機関の受診は、複雑な検査や治療が理解出来なかったり、感覚過敏やじつとしていられない事、大きな不安などで、ご家族も苦労した事はたくさんあると思います。

そこで受診する病院の医師は、障害に理解がある事、また能力のみならず



らず相性も重要になります。更に合理的配慮や、具体的な工夫があれば、最高の条件になります。ただし障害についてしっかりとした知識を持った医師の人数は、まだ多いとは限りません。そんななか、生まれつきの障害の他に、日常生活習慣の影響により、大人になるにつれ、肥満や肝機能障害などの健康問題が出てきます。また訴える事が出来ないために、病気の発見の遅れや、医療機関が不慣れたために、治療の遅れや検査がうまく出来なかったりなどで、病気が重度になる場合もあります。

【合理的配慮や具体的工夫について】

大屋先生の病院では、医療行為の内容（場所・手順・所要時間等）の理解や医療行為の納得を目指して、ゆつくり話す事や、絵カードや写真などを使用したり、「10数えるまで。」などと、見通しを持たせる配慮を積極的に取り入れています。また感覚の配慮としては、ゼリーやアルコー



ル消毒なども事前に使ってみたり、電極をつける練習なども取り入れています。そして環境の配慮として、手術の練習も取り入れて、手術室やMRIの部屋などに何度も遊びに行かせて、麻酔台に乗れるようにしたりと、独自の工夫をされています。

障害のある人の暮らしを支える 第58回関東甲信越大会 新潟大会

昨年9月28日（土）、第58回関東甲信越大会が新潟県新潟テルサにて開催されました。

◆中央情勢報告

全国手をつなぐ育成会連合会
常務理事、事務局長
又村あおい氏

【障害児支援】

各地の児童発達支援センターが地域における障害児支援の核的役割を担うことの明確化。インクルージョンの推進、障害児子育て支援体制の整備。

【意思決定支援の重視】

サービス担当者会議、個別支援会議には、本人の心身状況等によりやむを得ない場合を除き、原則会議への「本人同席」が法定化。※同席とは本人がただそこにいるだけでなく、本人の分かるように、本人の分かるやり方で会議を進めること。



全入居者を対象に、将来の暮らしぶりの意向確認の法定化。グループホームにおいては一人暮らし等を希望する人（全入居者への意向確認必須）への「卒業支援」の法定化。それには地域生活支援体制の整備が重要となる。

その他、強度行動障害支援、成年後見制度の見直し、療育手帳の判定の見直しなどの報告がありました。

◆講演

（副会長 神山）

『障害のある人の暮らしを支えるツールみとおし・えらぶ・おはなし』

株式会社おめどう代表取締役奥平綾子氏による講演がありました。障害のある人の暮らしを支える三つの大切なことをお話しいただきました。

一、みとおし↓視覚的・具体的・肯定的な声かけ、対応を。そうすることによって心構えができ、安心して過ごすことにつながり「心」を支えます。二、えらぶ↓周りが良かれと思ってやってしまうのではなく、まずは本人が二つの中から一つだけとることから始め、やがて多くの中から選択するようになることで自己決定ができ、意思決定支援につながります。三、おはなし↓本人のことは本人に伝え、仲間はすれにしない。

相手と直接向き合うことを心がけることで「関係性」を支えます。普段からの積み重ねが大切であると感じました。

（副会長 御代）

それから人間ドック（内視鏡など

難しい検査は除く）で、絵カードや説明動画等を使い事前に予習をしておけば、スムーズに検査や手術が出来る事も多いそうです。小さな頃に医療機関で体験した恐怖心は、大きくなって残ってしまい、その後の医療受診がうまく出来なくなる事は多いです。本当は受診に対する練習は、小さい頃から療育機関や特別支援学校などで学習しておく事が大切だそうです。ただし、大きくならないからでも事前に予習を行っていたら、

きつと効果は出るはずですよ。

【家族として出来る事】

まず、「いつ」「何が」「どう起きたか」「症状の経過」などの、正確な情報を伝える事や、支援員等の助けを借りたり、緊急性がない時は、無理に受診をしない事も、上手に医療とつきあうためのコツだそうです。そして何よりも診察や検査や治療などが出来た時は、しっかりと褒めてあげる事が、家族として最も重要な事であると思います。

（研修部 加藤）

「親が遺すことをし残さないために」

第11回話そう会

第11回話そう会が昨年11月に、若葉区保健福祉センター、でい・さくさべの2か所にて、久保田美也子さん（元会長）をお招きしてテーマ「親が遺すことをし残さないために」の体験談をうかがいました。

終活の最初は12年分の連絡帳の廃棄。読みふけてしま



い、3年かかったそうです。アルバムも処分、家族の分も入れて5冊に。小学1年当時の、海で風に飛んでいく浮き輪を屈託なく追う写真からは「ぼくはぼくの人生を生きる」と言っているような感じを受けたそうです。

学校を卒業してからは、コミュニティフレンドに、酒造会社の酒蔵バーに連れて行ってもらって、ジャズや民謡を楽しんだり、池袋までグリーン車に乗って、親子で第九のコンサートに行ったりしましたが、本人は憶えていないだろうとのこと。「親なきあとも息子なりに充実した人生を送ってほしい」と話されていました。

参加者からの感想・「本人がいい人生だったと思える人生」になるよう私たち両親が元気なうちに楽しい経験を沢山させたいと再認識しました・こういった事を話せる機会などはなかなかなくて育成会の会員でいて良かったと思います。（副会長 佐久間）



「気づき」を大切に

1月14日（火）こども委員会で、まんま隊の皆さんをお招きし、「家族支援ワークショップ」を行いました。障害児本人だけでなくその家族に焦点を当てた学習プログラムです。最初にいくつかのルール説明の後、自己紹介をかねて、出席者本人がハマっていることを1人ずつ発表していき、自然と笑顔がでて和やかな雰囲気にな



りました。その後「親子関係チェックシート」や「言葉の点検ワーク」に取り組むことにより、障害児も含め家族の思いや、自分自身のことも見直すことができ、それぞれの「気づき」に繋がりました。「また参加したい」「もつと前に出会いたかった」等、感想を頂きました。3名のファシリテーターの方々、ありがとうございました。

（こども委員会 宮本）

より暮らしやすい「まち」を

千葉市バリアフリーマスタープランの地区別基本構想の策定にあたり、昨年11/18・25に蘇我・鎌取・都賀地区で、まち歩き点検ワークショップが行われました。外出時、何気なく使っているトイレも、水の流し方の表示の必要性を感じたり、他にも障害のある人が利用することを意識して見てみると気が付くことができました。

様々な障害者団体の方々ともまち点検をしました。それぞれの障害にとつてのバリア（障壁）を知ること、それを取り除くことにつながり、どんな人にとっても暮らしやすいまちになって欲しいです。

（副会長 御代）

あんしん委員会 災害への備えハンドブック

ご家族間、地域の方との災害の備えとして、参考にしていただきたいと思います。

災害が起こった時、お一人で行動される障害のある方にも分かりやすい内容を目指して作成しました。

